

子ども日本語教室（小学生）における 子どもからの意見聴取の取組 実施報告書

1. 事業概要

（1）実施目的

- 杉並区基本構想の子ども分野に掲げた目標「すべての子どもが、自分らしく生きていくことができるまち」の実現に向けて、「（仮称）杉並区子どもの権利に関する条例」の制定を見据えた取組を進めるにあたり、子どもからの意見を幅広く聴くことを目的として、子ども基本法第11条に基づく意見表明の機会の一つとして当該取組を実施しました。
- 子どもの状況や特性は多様であることから、今回は子ども日本語教室（※）に通っている外国にルーツを持つ子どもたちのうち、小学生を対象に行いました。

※『子ども日本語教室』

日本語の習得が不十分なために、学校生活への対応が遅れがちな区内在住の帰国・外国人児童生徒を対象に、これまでの日本語の指導（訪問指導、補充指導）に加えて、日本語を学び続け、日本での生活に必要な日本語能力を身に付けることができるよう、杉並区、杉並区交流協会及び杉並区教育委員会で協力し、「子ども日本語教室」を令和5年1月に開講しました。指導には、教室講師及び「子ども日本語学習支援ボランティア養成講座」を修了した学習支援ボランティアあたり、令和5年9月末現在、小学生教室28名、中学生教室16名の児童・生徒が学んでいます。

（2）実施概要

- ①日 時：令和5年9月27日（水） 午後3時45分から午後4時45分まで
- ②会 場：子ども日本語教室 高円寺教室
- ③参加人数：計4名（内訳は下記のとおり） ※学年は令和5年9月現在
 - 小学3年生 2名
 - 小学4年生 2名
 - 国籍：中国、モンゴル、ネパール
- ④サポート：教室講師、杉並区交流協会職員

2. 取組を進めるにあたって

子どもから意見を聴くにあたっては、国が作成した「こども政策決定過程におけるこどもの意見反映プロセスの在り方に関する調査研究調査報告書（2023年3月）」中の「こどもや若者の状況や特性は多様であることを認識し、その最善の利益を第一に考え、安心・安全を確保して取り組まなければならない。」ことを念頭に、日本語を母語とせず、日本語の習得が不十分な子どもは、意見表明の手法の選択肢や機会が限られることから声をあげにくい状況にあり、聴く側の工夫や配慮が特に必要とされるという視点から以下の検討を行いました。

・教室見学と打ち合わせの実施（7月18日・19日、8月24日、9月20日）

どのような子どもたちが日本語教室に通っているのか、どういう勉強をしているのか、大人はどういった視点で子どもたちに関わっているのかを教室関係者から伺ったり、教室の様子を見学させてもらうなどして、子どもたちの現状を知ることからはじめました。

質問内容の検討

教室の企画運営に携わられている嶋田和子先生、教室講師をされている田代奈緒子先生に、検討過程で生じた疑問や不安に対し、専門家であり子どもたちと関わられている立場からアドバイスをいただきながら進めました。

・何を聴くのか（テーマ設定）

特有の課題があることを前提に「日本語ができないことでの困りごと」を質問をするのではなく、「今どのようなことを考えているのか、子どもたちの素直な声や思い」を聴き取ることとしました。

「意見」には、思いや考え、身振りや黙っているという非言語で表現されるものも含まれるという認識に立ち、子どもとのやり取りをシミュレーションしました。やり取りが対話方式になることから、感想や雑談だけで終わらないために、会話が自由に広がったとしても、たどり着く目的地としてテーマを設けました。テーマは子ども日本語教室の目的と「子どもの権利条約」を踏まえ、会話の幅を持たせるために3つ（「学び」「遊び・居場所」「意見を言う」）用意しました。

具体的な質問項目は、ネガティブなことよりもポジティブなことや聴き方になるようにテーマに結び付けて複数準備しました。子どもの答えを受け止めつつ、「どうして?」「どうやって?」「どういうところが?」のように、子どもの考えをさらに深めていける会話の流れとなるよう準備しました。

・どう聴くのか（聴き方の工夫・配慮）

すべての子どもに聴くのと同じ質問を、簡単でわかりやすい言葉や言い方に置き換えたり、普段の自分の様子をわかってくれている大人が近くにいる安心な環境を作る工夫をしました。

なお、通訳や翻訳アプリは、日本語を学ぶ目的の教室であるということから、配置しませんでした。

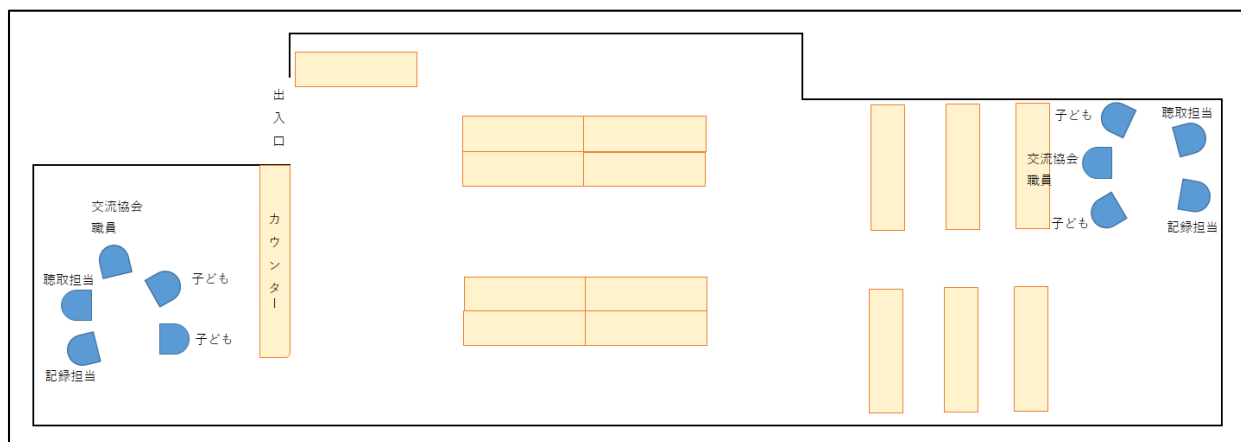
3. 当日の様子

(1) 会場レイアウト

子どもたちがリラックスして話ができるように、普段から通っている教室を会場にして、授業が始まる前の時間を使って行いました。

登室してくる他の子どもたちや授業の準備があるため、中央の授業スペースを挟んで、両端に小さなスペースを作り、子どもたちが質問者の方を向く位置に座り、話に集中できるようにしました。

また、親しい雰囲気話せるように、質問者と子どもたちの間には机を置かず、車座になりました。



(2) 実施方法

子ども（2名）と子ども政策担当職員（聴取担当1名・記録担当1名）に、サポート役として普段から子どもと関わっている杉並区交流協会職員（1名）の計5名を1グループとし、2グループに分けて行いました。

教室講師は全体が円滑に進むように、子どもの様子や会話の流れ等に気を配り、各グループの進行を補助しました。

今回参加した子どもは、日本語の習熟度や初対面の大人とも話せるという観点等から、事前に声がけし、保護者の了承を得た上で、参加してもらいました。

聴き取りは、子どもの権利条約を踏まえた3つのテーマ（「学び」「遊び・居場所」「意見を言う」）を設け、関連する複数の質問項目を用意しました。子どもから普段の様子を聞きながら、質問をしていきました。

小人数の対面方式だったため、子どもたちの集中力を考慮し、30分程度を目安に実施しました。

(1) 自己紹介と今日のルール

- イスに向かい合って、お互いに自己紹介をしてから、今日の目的やルールについて確認しました。
- 今日のルール
 - ①「ここでは何を話してもまちがいではありません」
 - ②「言いたくないことは無理に言わなくてOK」
 - ③「ここで聞いたことは秘密にしてね
(あの子がこんなことを言っていたよ。は言わないでね)」



(2) 意見の聴き取り

- 子ども日本語教室の目的と子どもの権利条約を踏まえた3つのテーマ（「学び」「遊び・居場所」「意見を言う」）に関連する質問をし、子どもたちから普段感じていることを素直に、自由に答えてもらいました。
- 子どもたちの緊張をほぐすため、会話をしながら自然に用意した質問に入る想定でしたが、自然に質問に入れたグループと子どもがたくさんおしゃべりしてくれたので、最初の質問になかなか入れないグループに分かれました。
- 子どもが話したことは、必ず相づちと笑顔でしっかり受け止めながら、どうしてそう考えたのか、質問を重ねるようにしました。また、話が長くなっても遮ることはせず、話し終わってからもう一人に話題を振るように進めました。

※実際の会話例

日本語は家で使ってる？

「お母さんは日本語わからない。お父さんは日本語大丈夫。」

家では何の言葉で話すの？

「お母さんは中国かモンゴル。お父さんは日本語。」

全部の言葉がわかるの？

「わかる。一番日本語がわかる」

色々な言葉がわかってすごいね！

- 質問に対して、すぐに元気よく答えが返ってくるものもあれば、「う～ん」と考えたり、迷って何も答えなかったりすること、一人に対してした質問について、もう一人の子が反応するなど、様々な状況がありました。報告書では記載の都合上、次の①～③では上記のような会話のやり取りは省略し、ひとつの「 」にまとめて記載しています。また、適宜（ ）で会話の内容を補っている箇所があります。

①『学び』

• 今、どんな日本語を勉強をしているの？

「3年生の漢字。今日は畑、暑、寒を習った。わかると難しくない」

「今日は漢字は孫と焼を習った。算数は式と計算。買い物を式で表すとか、（ ）を使うとか。」

• 好きな科目はある？どんな勉強が好き？

「算数が好き。」

「難しい計算とか。日本語の方が難しい。どこに「を」をつけるとか。」

「漢字が好き。漢字ドリルに6回書いて練習している。」

• 家族とは何語で話す？

「家では英語。一番英語がわかる。」

「家では中国語で話す。教室では日本語。」

• 日本語のどこが難しい？

「漢字。あと分度器。（漢字は）自分でわかるまで勉強している。50点満点テストで満点をとったことがある。」

「（漢字は）簡単。先生が覚え方を教えてくれる。

3年のとき、1000問テストで975点とれた。」

• どんな勉強が難しい？

「難しいと思う勉強はない。」

• 宿題でわからないことがあったらどうしているの？

「宿題が難しいときは先生に聞いている。」

「全部わかる。それか、そろばん教室で聞くと何でもわかる。」

• 学校の授業でわからないことがあったらどうしている？

「日本語がよくわかる近くのネパールの友達に教えてもらうか、学校や日本語教室で聞く。」

• 学校ではなにをして遊んでいる？

「鬼ごっこ（氷おに）を校庭で友達とやるのが好き。」

• 大きくなったら何になりたい？

「（お父さんがやっている）ラーメン屋さん。」

「ビール飲みたい。マッチョになりたい。」

「今はまだわからない。」

「飛行機に乗っている人。それか病院の人（医者）。」

「サッカー選手か、そろばんの先生。」



②『遊び・居場所』

• 学校の後、いつも何をして遊んでいる？

「（スズメバチがいるから）外で遊ぶのは好きじゃない。」

「サッカーしてたけど、外が暑すぎてやめちゃった。」

「ゲームで遊んでる。」

「（学校で）ダンスまつりがあるから踊ってる。

みんなで踊ってる。」

「毎日習い事がある。そろばん、日本語教室、
サッカー。水泳もやるかどうか（考え中）。」



• 休みの日は何をしています？

「勉強したり、テレビを見たり、吉祥寺のゲームセンター行ったりする。」

「ゲームをお父さんとやったりする。」

「中野にあるプールに泳ぎに行く。」

• 学校に行きたくないことや嫌だなと思う時はある？そんな時どうする？

「学校で周りから悪口を言われるとき。先生がその人に注意してくれる。」

• 何をしている時が一番楽しい？

「日本語教室。」

「そろばん。4級受かったばかり、ほとんど満点だった。」

• どんどころで過ごすのが好き？

「ネパールの高い山。海にも行きたい。」

「ゲームセンターが好き。魚釣りのメダルゲームで
メダルをどんどん貯めて遊ぶのが好き。」

「スポーツをするところ。」

「わかんね〜〜マジわかんね。」



③『意見を言う』

• もっとこうなったらいいなと思っていることはある？

「漢字を全部覚えたい。」

「ダンスが上手になりたい。」

「そろばんの授業50分を長くしてほしい。もっと練習したい。」

• あったらいいなと思う公園とかある？

「中国にあるようなでっかいお家の庭にあるような公園」

「はと公園（滑り台や、砂場がある公園）」

• 大人に言いたいことはある？

「大人とケンカすることはないから、言いたいと思うことはそんなにない」

(3) 最後に

- 参加してくれたお礼を職員から伝え、写真を一緒に撮りました。



- 写真は、カードにして参加した子どもたちへ渡しました。



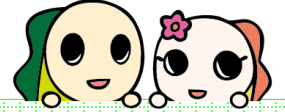
(4) 意見を聴く際の工夫

子どもから意見を聴く際に、聴き方以外にも以下のような工夫をして取り組みました。

名札…読みやすいように、ひらがなの名札を作りました。

服装…職員全員、スーツではなくカジュアルな服装で参加しました。

日本語の使い方…熟語や難しい言いまわしを使わないで、できるだけ簡単な日本語を使い、ゆっくりと話しました。また、事前に教室の先生にご意見をいただき、あいまいな表現はさけて、聴きたいことをはっきりと示すような日本語を選びました。



事務局職員の振り返り

【良かった点】

子どもたちが安心・安全な環境で自由に意見を言えるように、普段から通っている子ども日本語教室を会場にして取組を実施しました。顔見知りの教室の先生や杉並区交流協会の職員が一緒にいることで、とてもリラックスした雰囲気で行えました。

グループ構成や会場レイアウトは、実際に普段から子どもたちの様子や教室の雰囲気を見ている教室の先生をはじめ、関係者の方の準備やアドバイスがあったため、とても良い形でできました。

【課題】

当日は、グループで行ったため、会話がはずんだり、お互いの意見を聴きあうという良い面があった一方で、話す順番やもうひとりが興味を持たない話題の時の進め方、ひとりが話過ぎてしまう時など、グループで行う難しさもありました。

質問項目については、事前に教室の先生や関係者の方に質問意図とともに確認していただいたことで、安心して臨めましたが、会話がはじまってみると、準備していた質問と子どもたちが話したいことを両立させる点に苦戦しました。

また、会話がはずまないパターンは想定していましたが、子どもが質問の答えに限らずどんどん話してくれる場合についての想定が不足していました。

テーマについては、もっと大きなテーマにした方が、枠に捉われずにより子どもの気持ちを聞き出せたかもしれないと思う点があり、ち密に準備することと大胆に進めることのバランスが取れた対応がよりできるよう考える必要があります。

今回は対話形式の意見聴取だったため、報告書にまとめる際に、実際の様子をすべて伝えることが非常に難しいという点がありました。

また、急な欠席の場合の対応など突発的なことへの用意もする必要がありました。

子ども日本語教室（小学生）における子どもからの意見聴取の取組 実施報告書

令和5年10月

杉並区 子ども家庭部子ども政策担当課

東京都杉並区阿佐谷南1-15-1 TEL 03-3312-2111